

イノシシ等生息状況調査(集落アンケート)

集計結果概要

目的と方法、回収結果

【調査目的】

野生鳥獣の生息状況や被害状況などの獣害対策に関する地域特性を明らかにして、今後の対策の基礎資料とする。

【調査方法と対象】

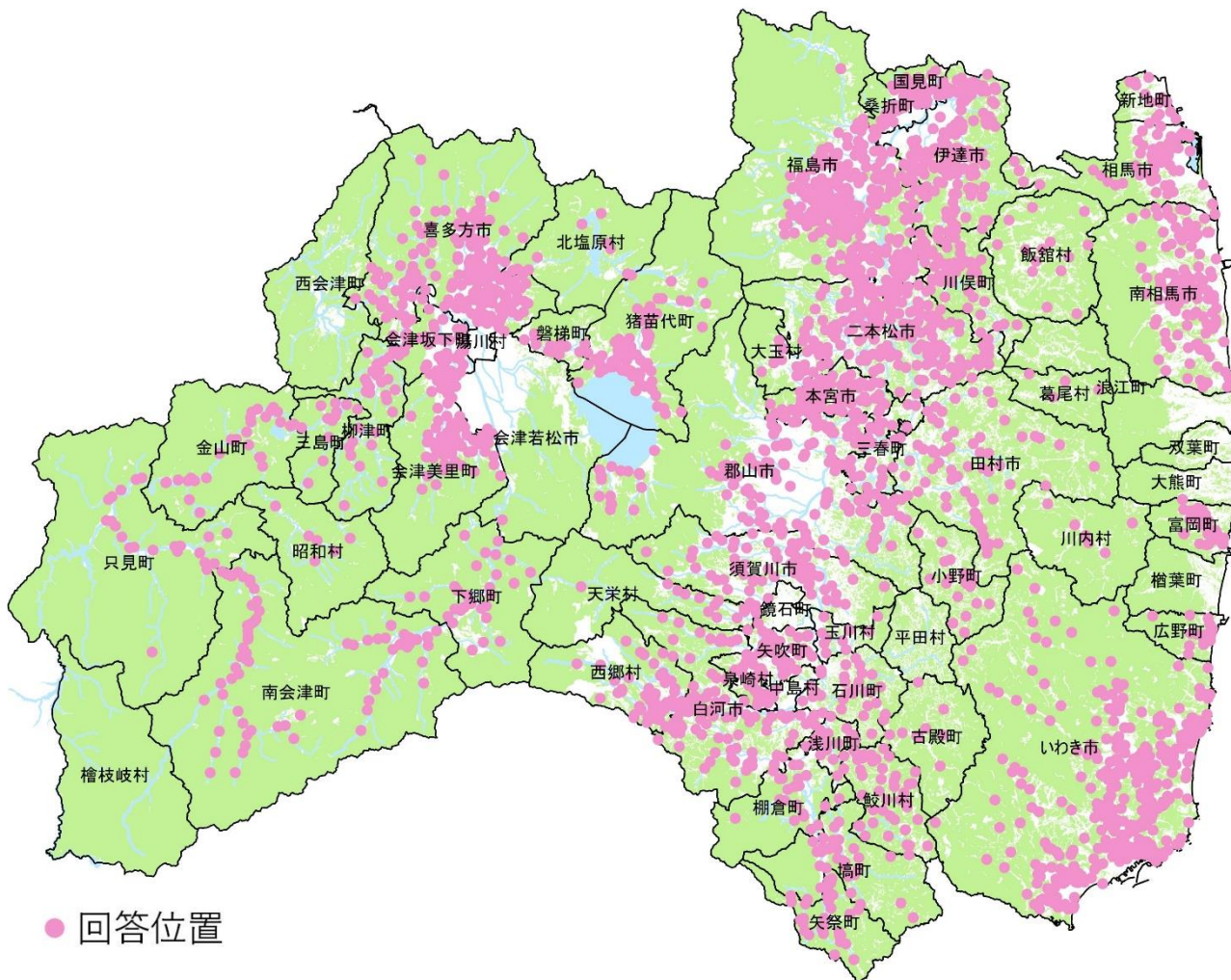
原則として1集落1枚アンケート用紙を配布し(配布部数4,833件)、回収、入力、分析を行った。

【回収結果】

回収したアンケート数3,122件のうち、回答点緯度経度が判明した3,081件(浜通り708件、中通り1,705件、会津668件)について、主な質問項目について図示した(下図)。

【留意事項】

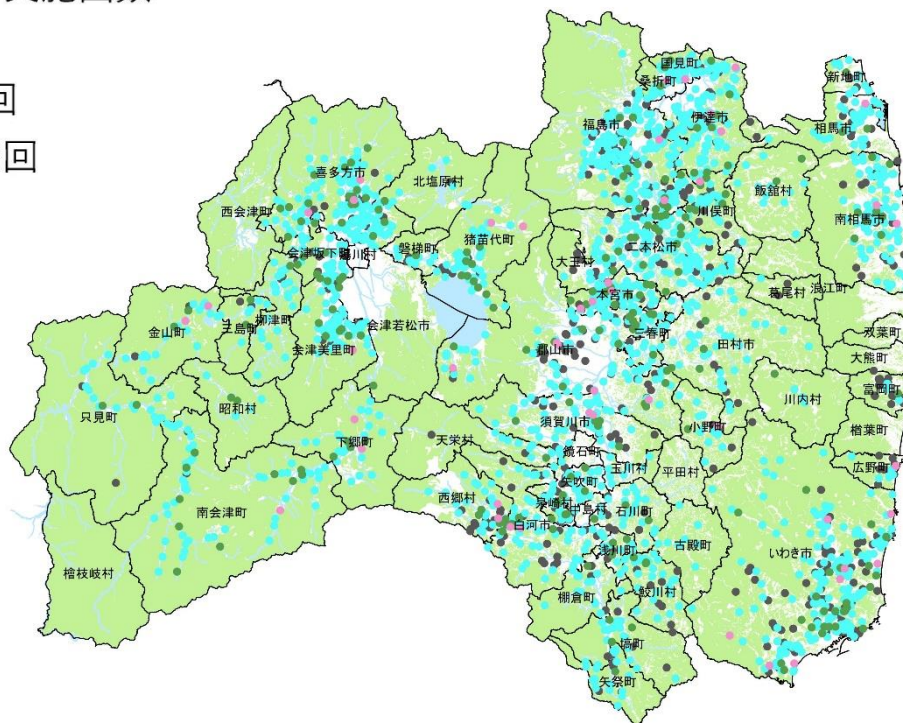
本調査は集落の代表者等を対象にアンケートを実施したことから、詳細については精査が必要である。



集落の状況

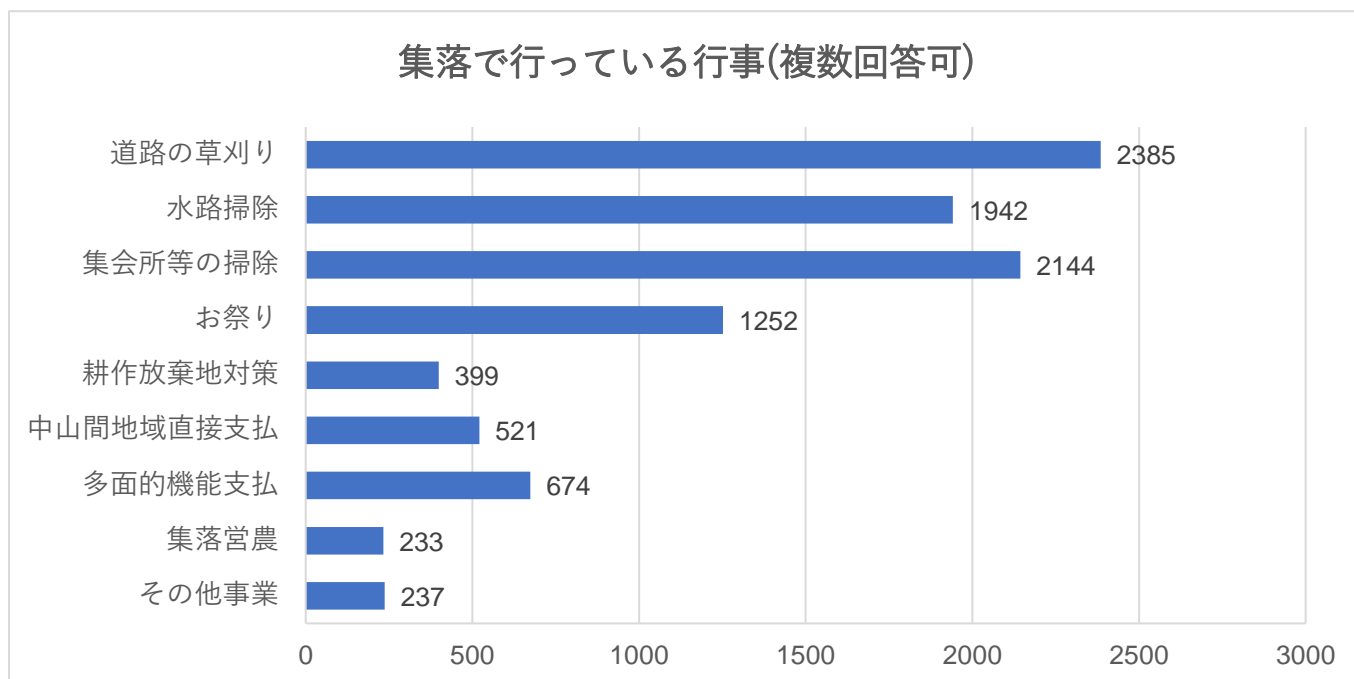
年間の寄合の実施回数

- 0回
- 1回から6回
- 7回から12回
- 13回以上



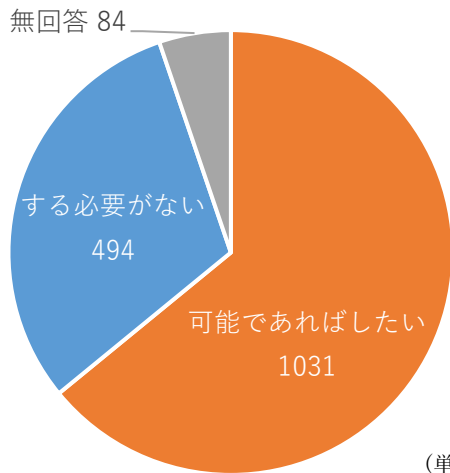
寄り合いの年間実施回数は平均約 4.1 回で、1~6 回の集落が約 8 割（1,980 件）と最も多かった。今年度は、感染症対策のため寄合を実施していないという記入も見受けられた。

集落で行っている行事(複数回答可)



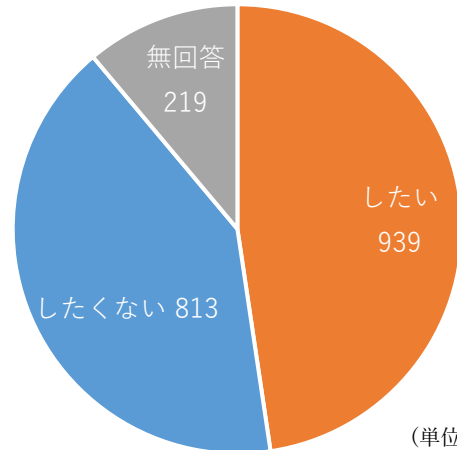
集落で行なっている行事の回答としては、多い方から「道路の草刈り」や「集会所等の掃除」「水路掃除」が半数以上の集落で行われているのに対して、「多面的機能支払」や「中山間地域直接支払」の交付金を利用している集落が 2 割前後、「耕作放棄地対策」や「集落営農」が 1 割前後であった。概ね昨年度と同様の傾向であったが、「お祭り」は、やはり感染症の影響か、昨年度は半数以上の集落で回答があったが、今年度は 4 割に留まった

集落ぐるみの対策の実施希望



(単位：件数)

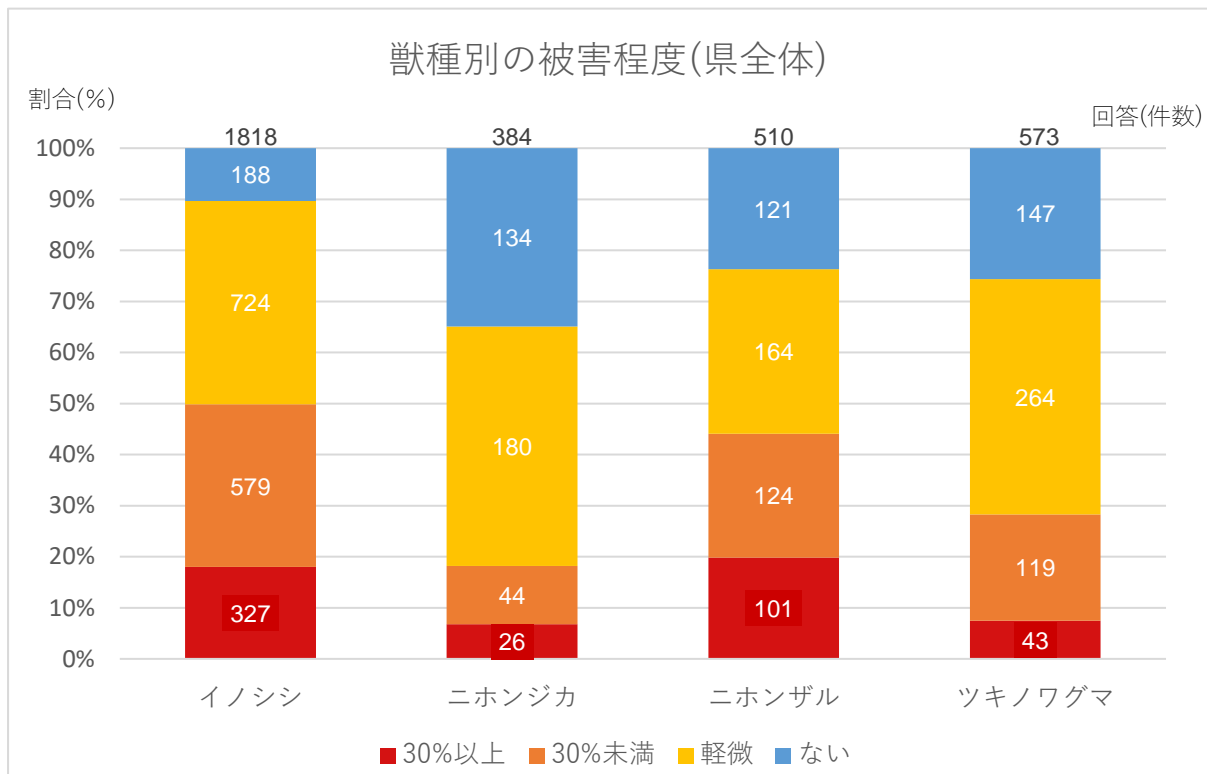
集落外の住民との協働の実施希望



(単位：件数)

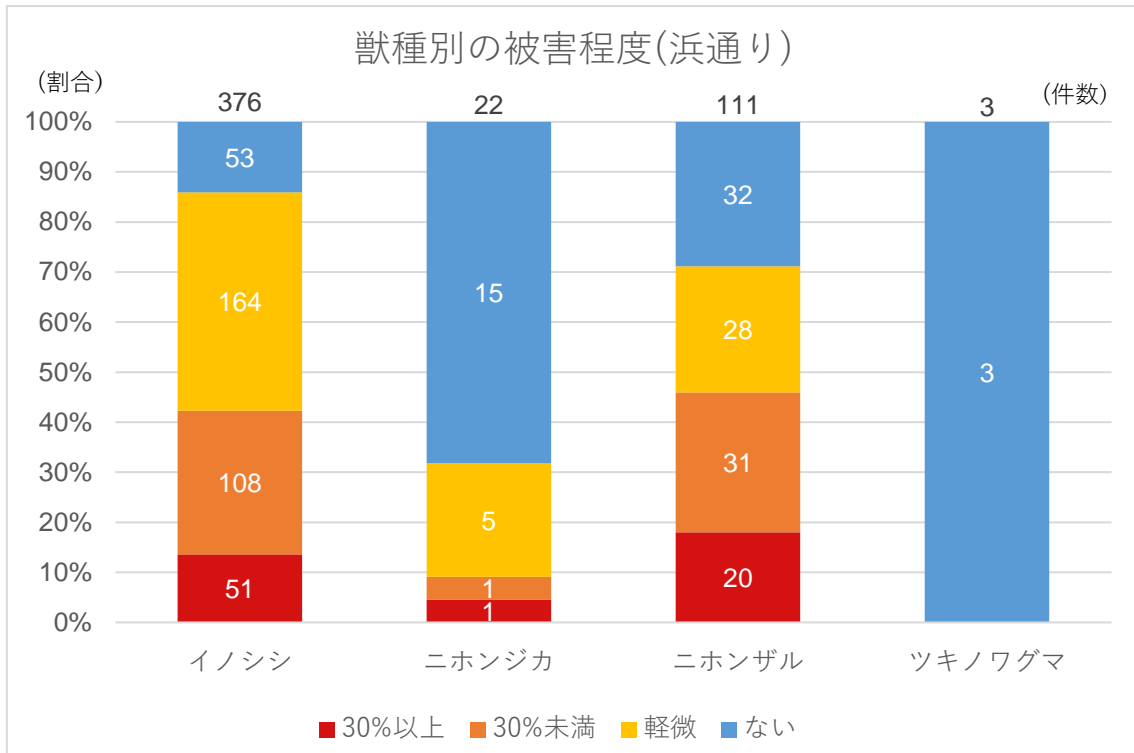
現在、個人で対策をしている集落に対して聞いた「集落ぐるみの対策」の希望状況は、「可能であればしたい」が過半数を占めていた。また、現状、集落外住民の参加のない集落に対して聞いた「集落外の住民との協働」については、約半数が協働を希望していた。これらは、モデル集落等の選定や、集落ごとの実施内容を決める際の指標となる。

獣種別の被害状況

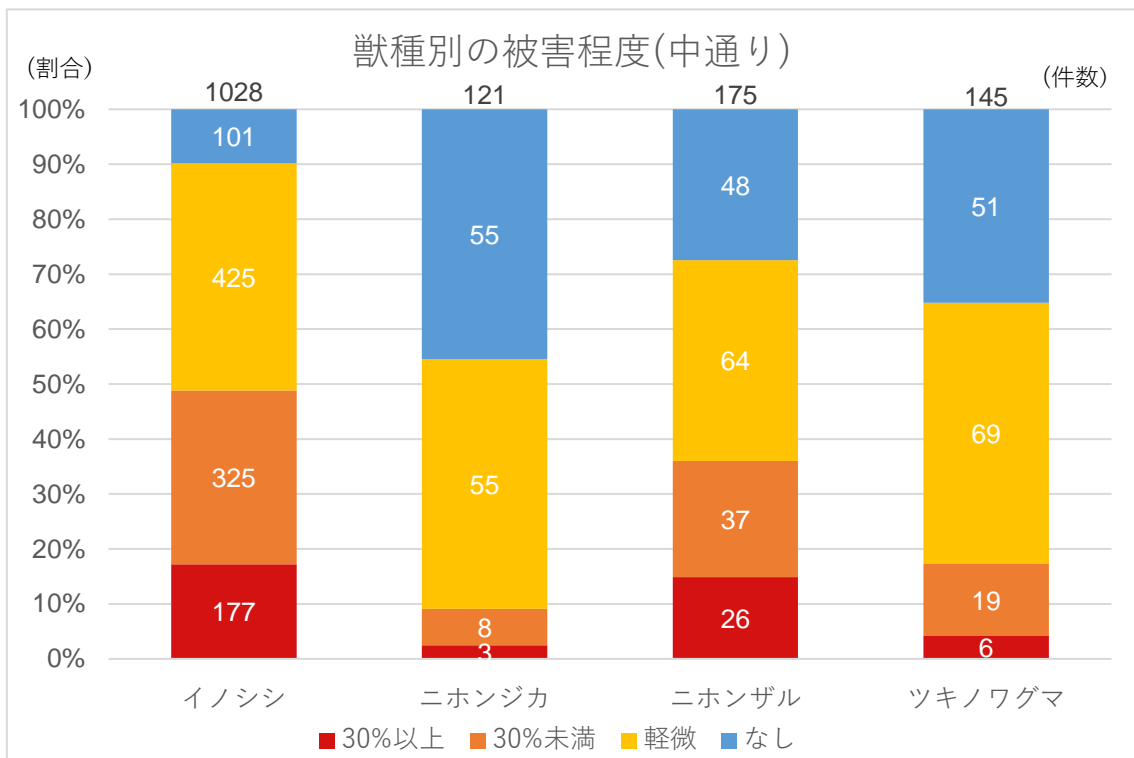


獣種別の被害発生件数は、イノシシが最も多く、次いでツキノワグマであった。最も被害件数が少なかったのはニホンジカであった。

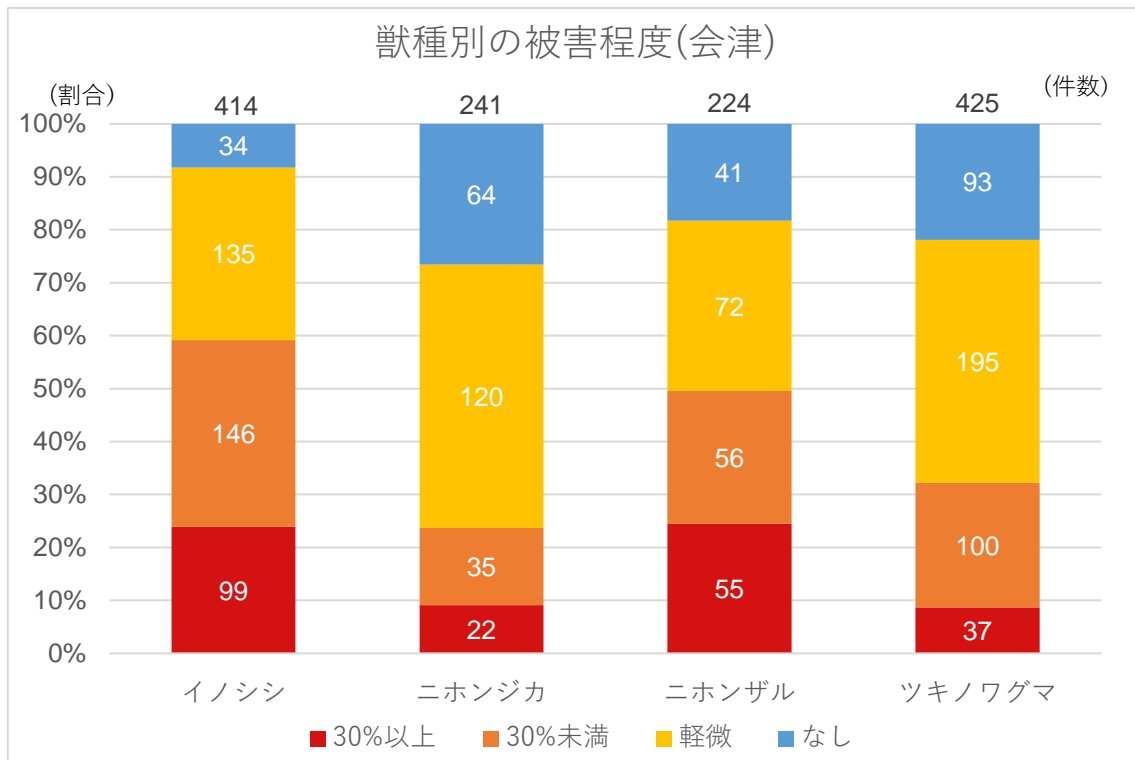
被害の程度については、ニホンジカは昨年度同様、生産量の「30%以上」または「30%未満」との回答が1～2割程度であったが、ツキノワグマは3割弱にまで増加した。ここ2年間、堅果類の凶作が続いていることが影響した可能性がある。イノシシとニホンザルでは「30%以上」または「30%未満」が4～5割を占めており、昨年度同様、この2種による被害が大きい。



浜通りにおける獣種別の被害発生件数は、イノシシが最も多く、次いでニホンザルであった。ツキノワグマの被害件数は0件だった。被害の程度を見ると、イノシシは「30%以上」及び「30%未満」と回答した割合が4割を超え、ニホンザルで5割弱となり、両種の被害は昨年度に比べ増加している。ニホンジカは被害が非常に少ないものの、昨年度は回答の無かった「30%以上」及び「30%未満」との回答が1件ずつとなり、今後の被害拡大に注意が必要である。



中通りにおける獣種別の被害発生件数は、イノシシが最も多く、次いでニホンザルであった。被害の程度を見ると、イノシシは「30%以上」及び「30%未満」と回答した割合が5割弱、ニホンザルで3割強となった。中通りでは、その他の獣種でも10%程度で「30%以上」及び「30%未満」との回答があり、全ての獣種で昨年度よりも被害が大きい割合が増加した。

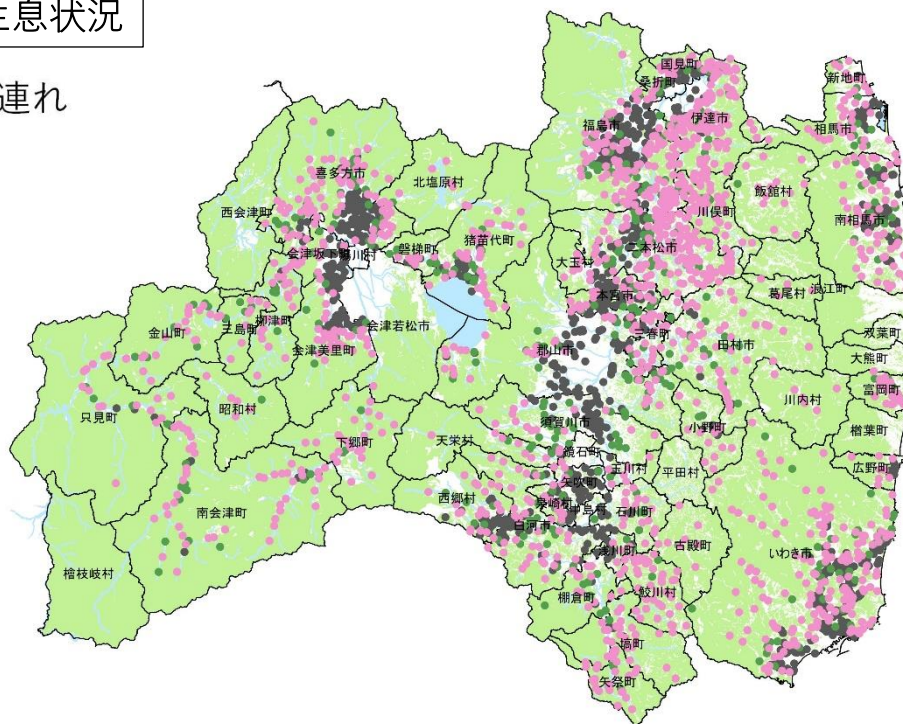


会津における獣種別の被害発生件数は、イノシシが最も多く、次いでツキノワグマと続いた。会津地方は、3方部のうちで唯一、ニホンジカにおける被害程度の「30%以上」及び「30%未満」の割合が2割を超え、ツキノワグマの同割合が3割を超えている。イノシシの被害程度を見ると、同割合が6割に届こうとしている。ニホンザルの被害程度と同割合は、昨年度と同様5割程度となった。

イノシシの生息状況

イノシシの生息状況

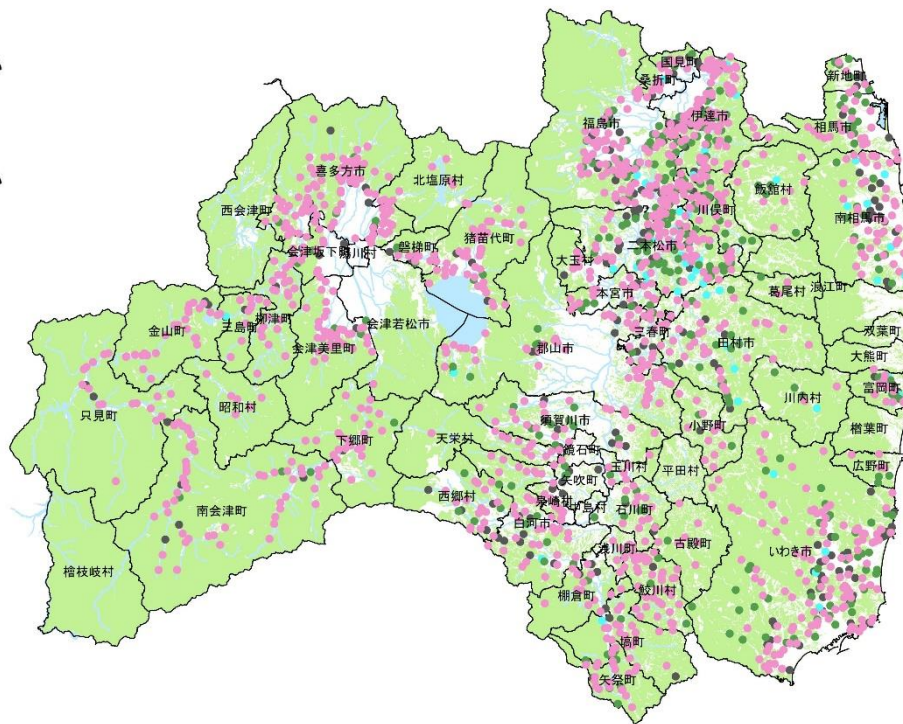
- 群れ、子連れ
- 1頭
- いない



イノシシは、市街地等を除く県内のほぼ全域で繁殖定着が確認された。

イノシシの生息状況の増減

- 増えた
- 変わらない
- 減った
- わからない

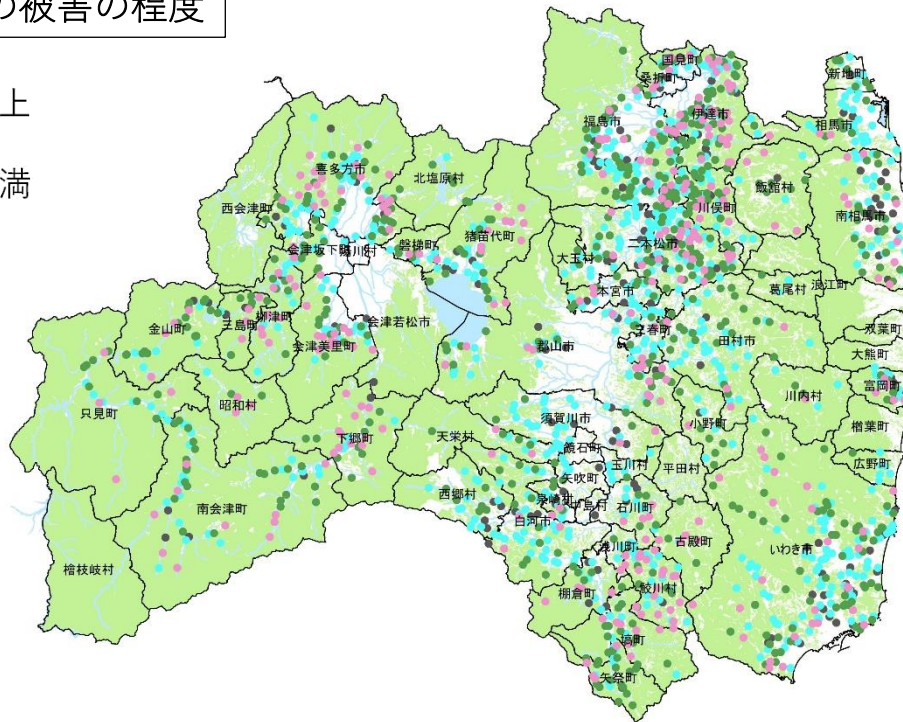


イノシシの生息状況は、ほぼ全域で増加傾向にある。この傾向は昨年度から変化がない。

イノシシの被害・対策状況

イノシシの被害の程度

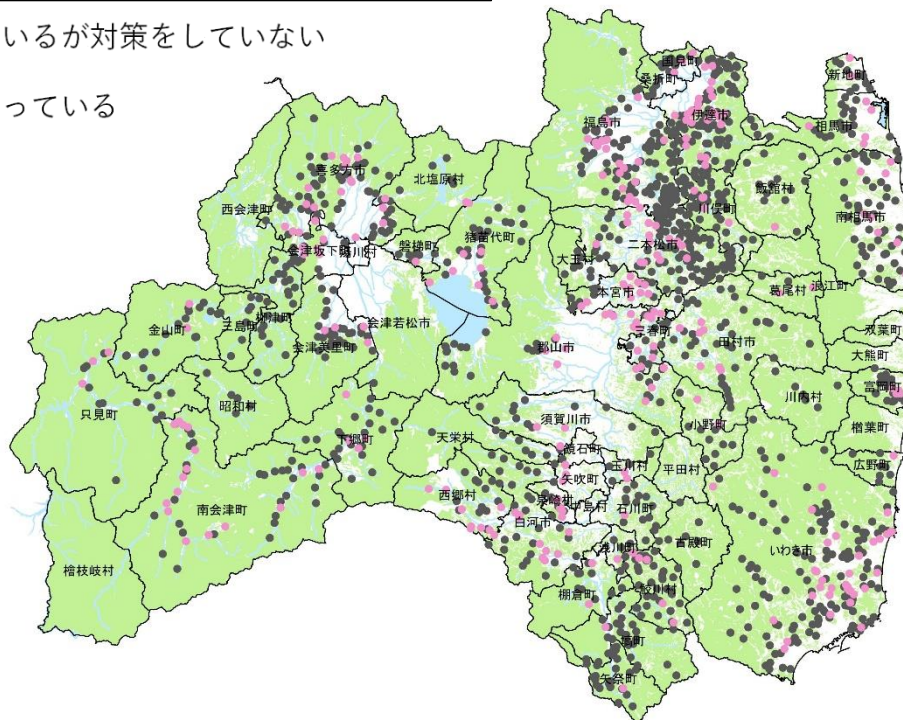
- 30%以上
- 30%未満
- 軽微
- ない



イノシシ被害の程度は、県内全域で混在していたが、中通りや浜通りでは、昨年度、一昨年度に比べ「軽微」との回答割合が増えたが、今年度は減少し、「30%以上」及び「30%未満」との回答が増加した。会津でも、「30%以上」及び「30%未満」との回答が増加している。

定着しているが対策をしていない集落

- 定着しているが対策をしていない
- 対策を行っている

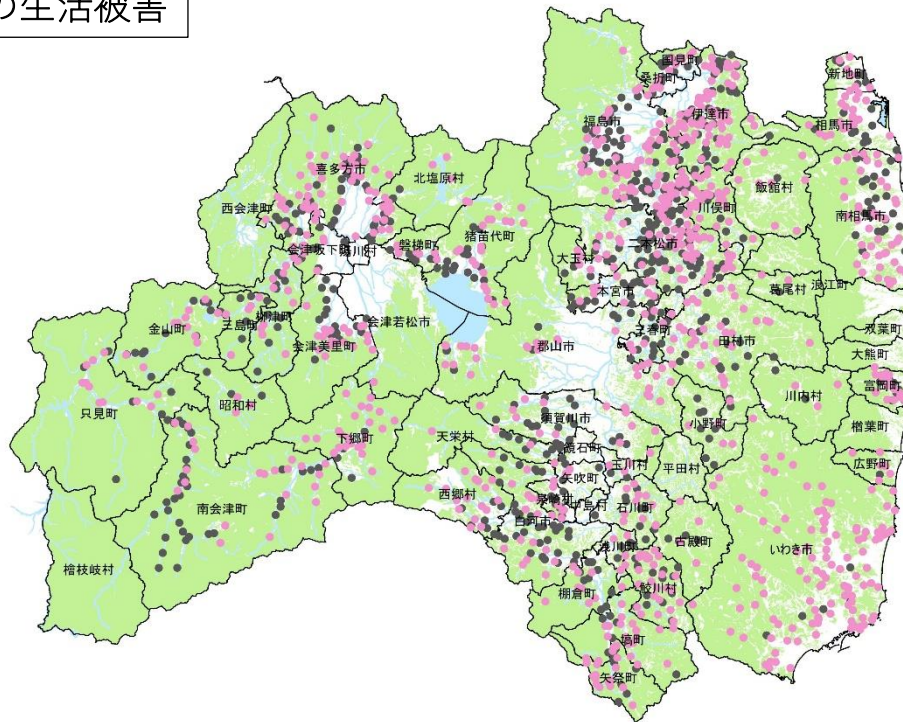


イノシシが定着している集落 1,475 件のうち、対策をしていない集落は 280 件(約 19.0%)あった。

イノシシの生活被害

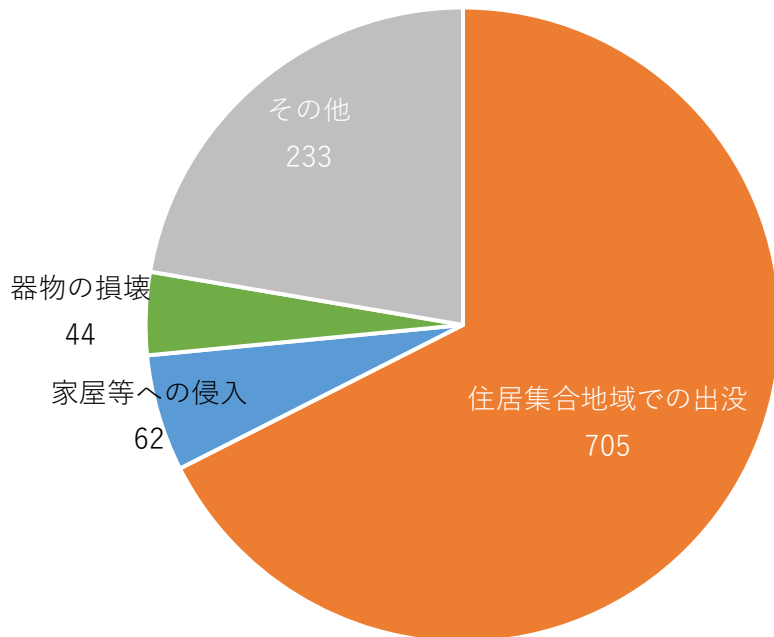
イノシシの生活被害

- あり
- なし



イノシシの生活被害は、県内全域で確認された。イノシシが生息している1,891集落のうち、何らかの生活被害があると回答した集落は927あった(49.0%)。

イノシシの生活被害の内容(複数回答可)

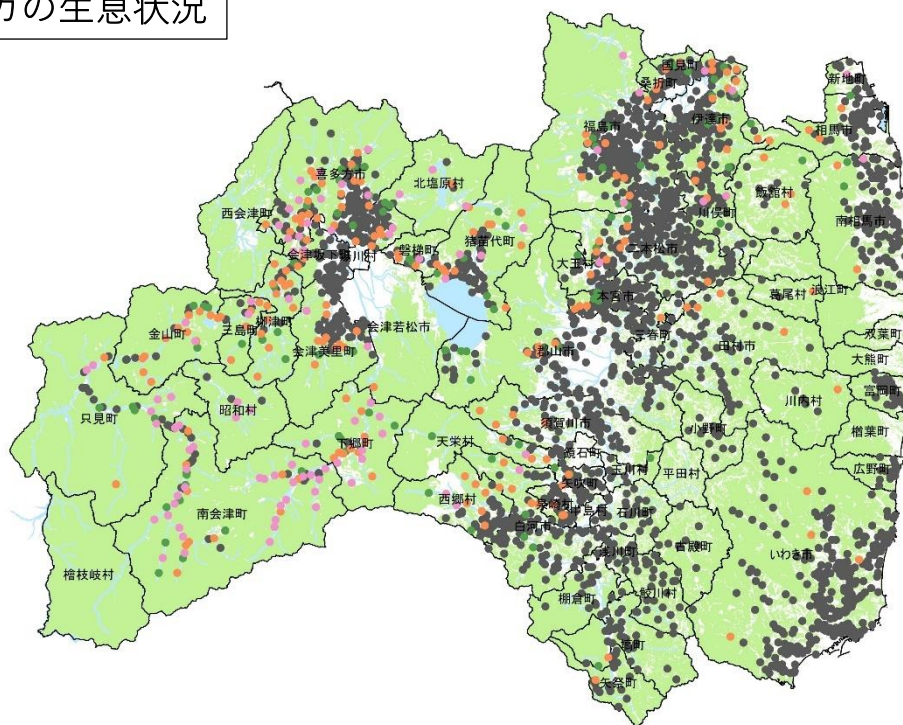


イノシシによる生活被害で最も回答件数が多かったのは「住居集合地域での出没」で、イノシシの生息する集落の37.3%で回答があった。

ニホンジカの生息状況

ニホンジカの生息状況

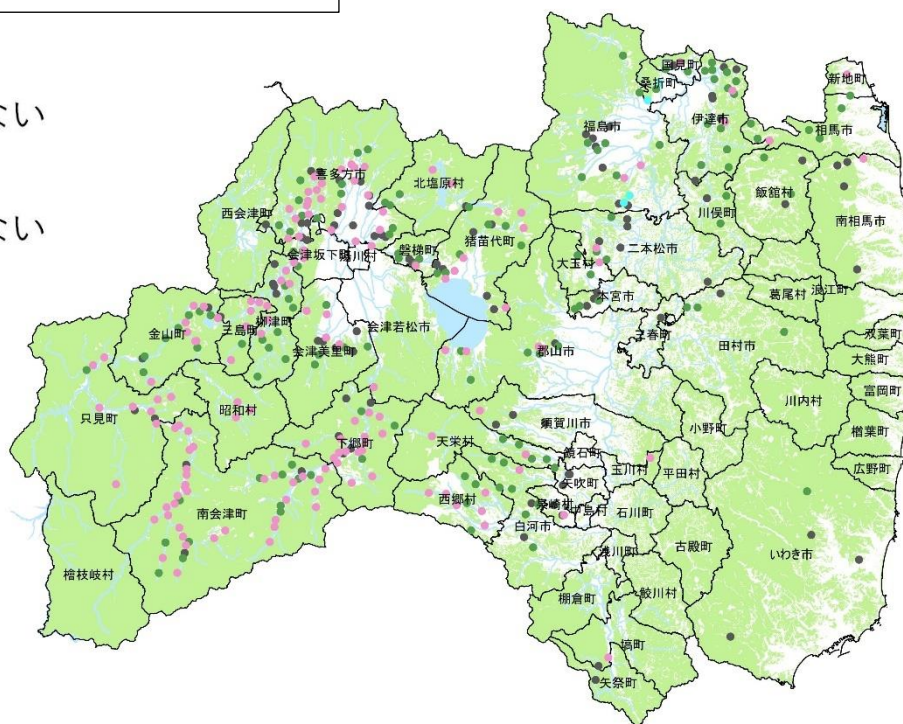
- 子連れ
- 角なし
- 角あり
- いない



ニホンジカの生息状況には偏りがあり、会津地方から中通り西部にかけて繁殖定着地域が分布している。今年度は、浜通りの各地でも「子連れ」や「角なし」の回答が増加しており、今後、被害が拡大する可能性もあるので注意が必要である。

ニホンジカの生息状況の増減

- 増えた
- 変わらない
- 減った
- わからない



会津から中通り西部にかけての繁殖定着地域で「増えた」との回答が多く見られるほか、県南地方西部でも「増えた」との回答が目立つ。また、新地町や相馬市でも「増えた」との回答が見られた。

ニホンジカの被害・対策状況

ニホンジカの被害の程度

- 30%以上
- 30%未満
- 軽微
- ない



「30%以上」や「30%未満」という回答は南会津地方に多い。中通りから東側は「軽微」と「ほとんどない」との回答が多かったが、伊達市や川俣町、南相馬市では「30%以上」との回答があった。

定着しているが対策をしていない集落

- 定着しているが対策をしていない
- 対策を行っている

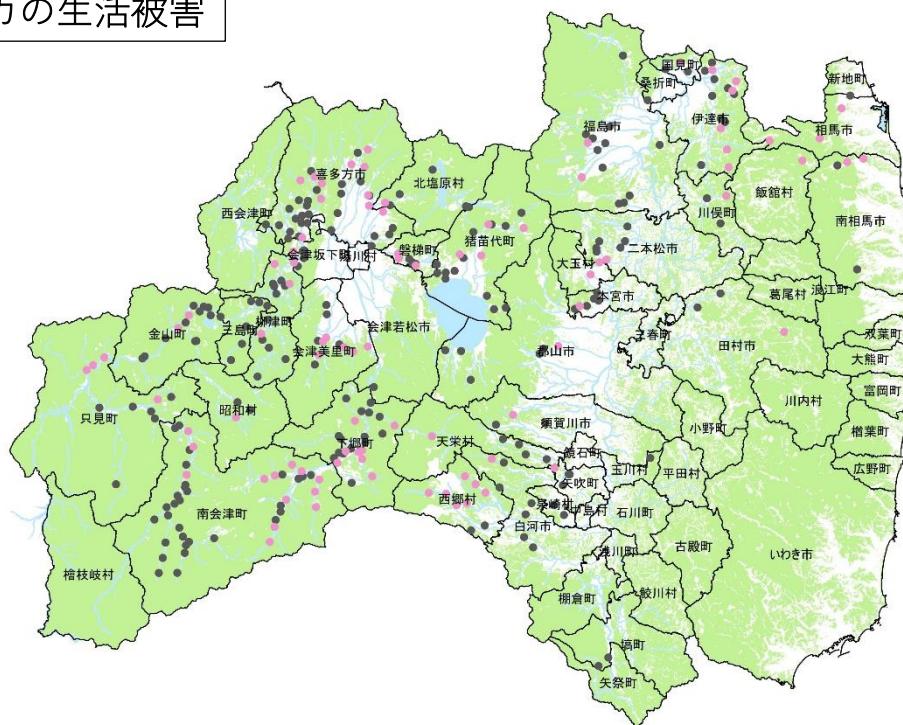


ニホンジカが定着している集落 294 件のうち、対策をしていない集落は 177 件(約 60.2%)であった。昨年度の 216 件中 121 件(約 56.0%)に比べ増加した。

ニホンジカ的生活被害

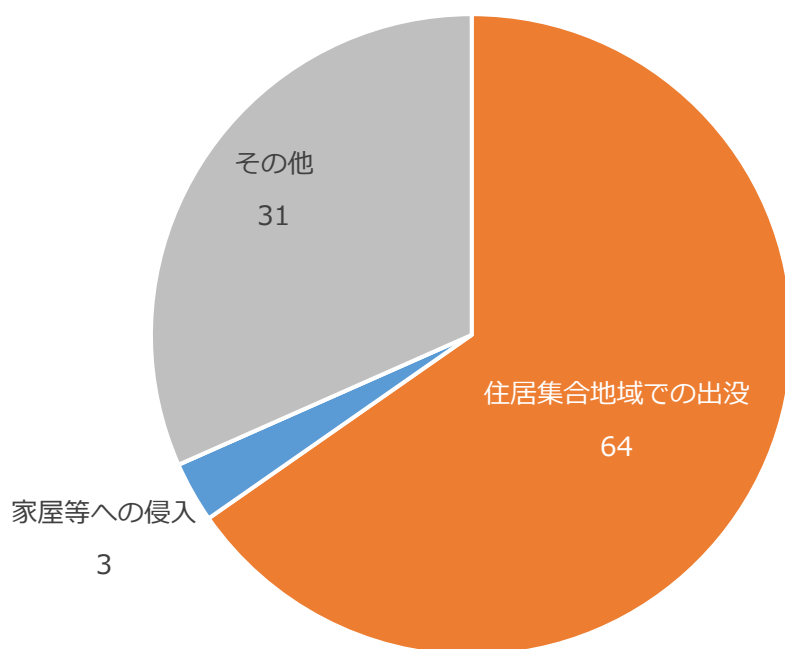
ニホンジカ的生活被害

- あり
- なし



ニホンジカ的生活被害は、主に会津や中通り西部で確認された。また、県北や相双地方でも確認された。ニホンジカが生息している401集落のうち、何らかの生活被害があると回答した集落は94あった(23.4%)。

ニホンジカ的生活被害の内容(複数回答可)

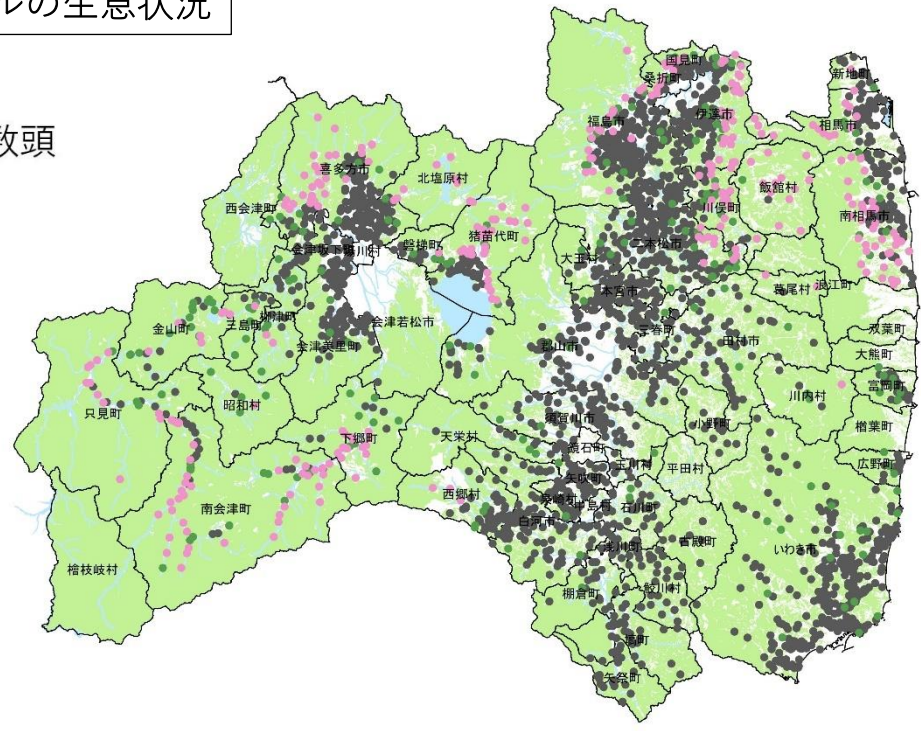


ニホンジカによる生活被害は他の獣種に比べ少なかったが、「住居集合地域での出没」との回答が64件あった。「器物の損壊」は0件であった。

ニホンザルの生息状況

ニホンザルの生息状況

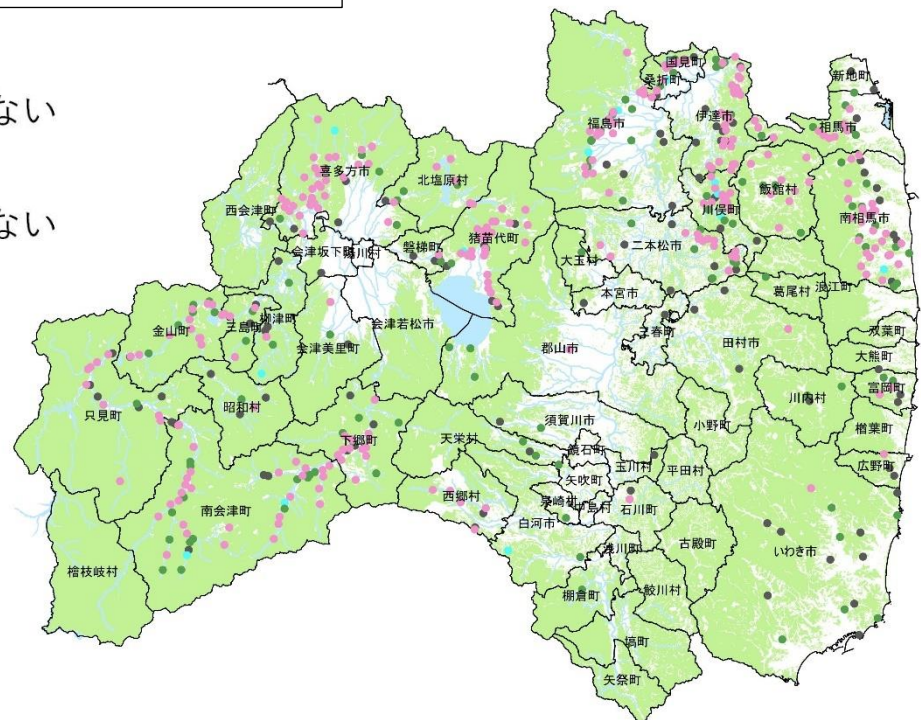
- 子連れ
- 1頭～数頭
- いない



ニホンザルは、県北地方、県南地方、会津地方、南会津地方、相双地方に分布しており、昨年度から大きな変化はない。いわき市は、継続して「1頭～数頭」の回答が多く、市内広域に点在していた。

ニホンザルの生息状況の増減

- 増えた
- 変わらない
- 減った
- わからない



「子連れ」が見られている地域のほとんどで「増えた」との回答があった。また、「1頭～数頭」の回答のみだった石川町やいわき市でも「増えた」との回答があった。

ニホンザルの被害・対策状況

ニホンザルの被害の程度

- 30%以上
- 30%未満
- 軽微
- ない



「子連れ」が確認されている地域では、「30%以上」や「30%未満」との回答と「軽微」との回答が混在していた。いわき市でも、2集落で「30%未満」との回答があり、詳細な調査が必要である。

定着しているが対策をしていない集落

- 定着しているが対策をしていない
- 対策を行っている

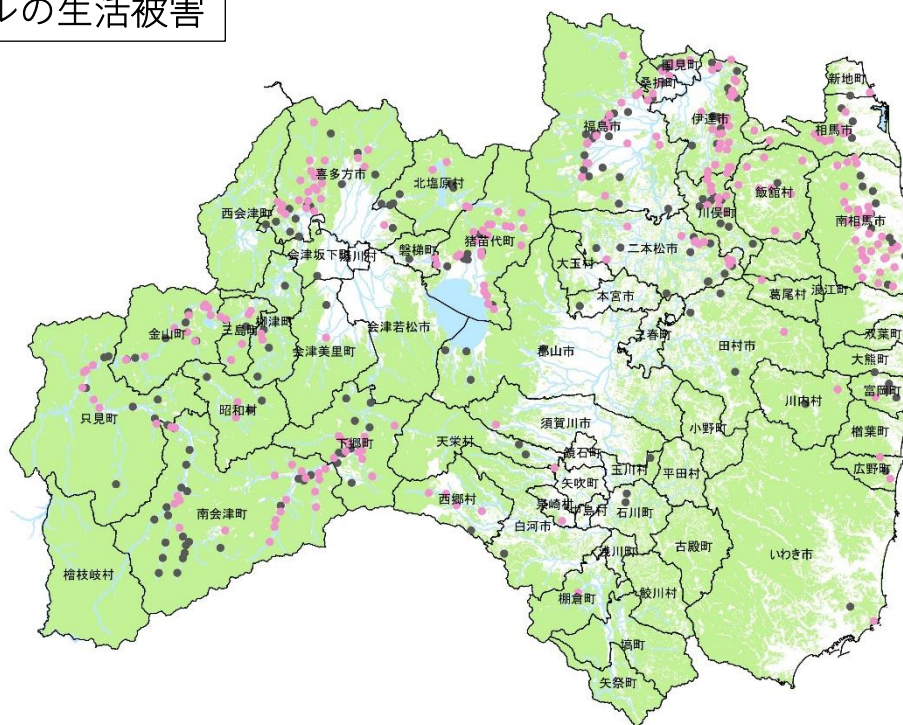


ニホンザルが繁殖定着している集落315件のうち、対策をしていない集落は65件(約20.6%)であり、多くの集落で何らかの対策は行われていた。しかし、対策を実施している集落でも、大きな被害が出ており、ニホンザル対策の難しさが浮き彫りになっている。

ニホンザルの生活被害

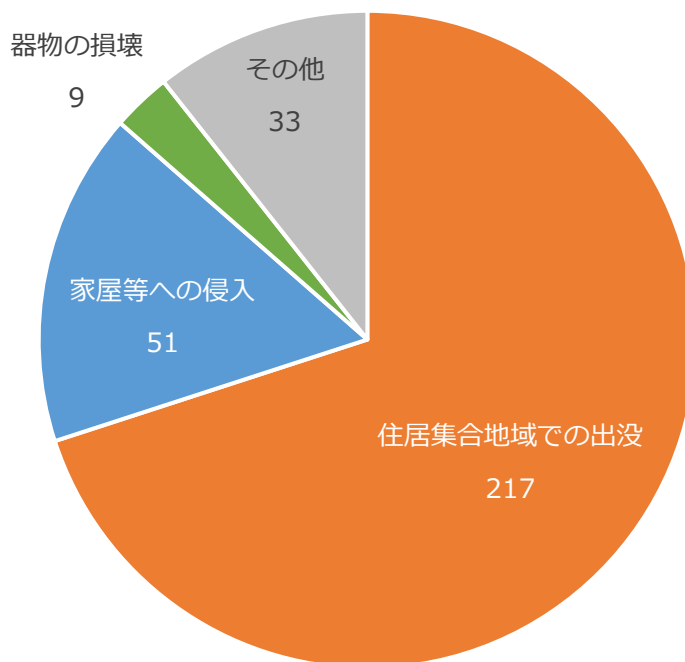
ニホンザルの生活被害

- あり
- なし



ニホンザルの生活被害は、主に群れが生息している地域で確認された。ニホンザルが生息している531集落のうち、何らかの生活被害があると回答した集落は262あった(49.3%)。

ニホンザルの生活被害の内容(複数回答可)

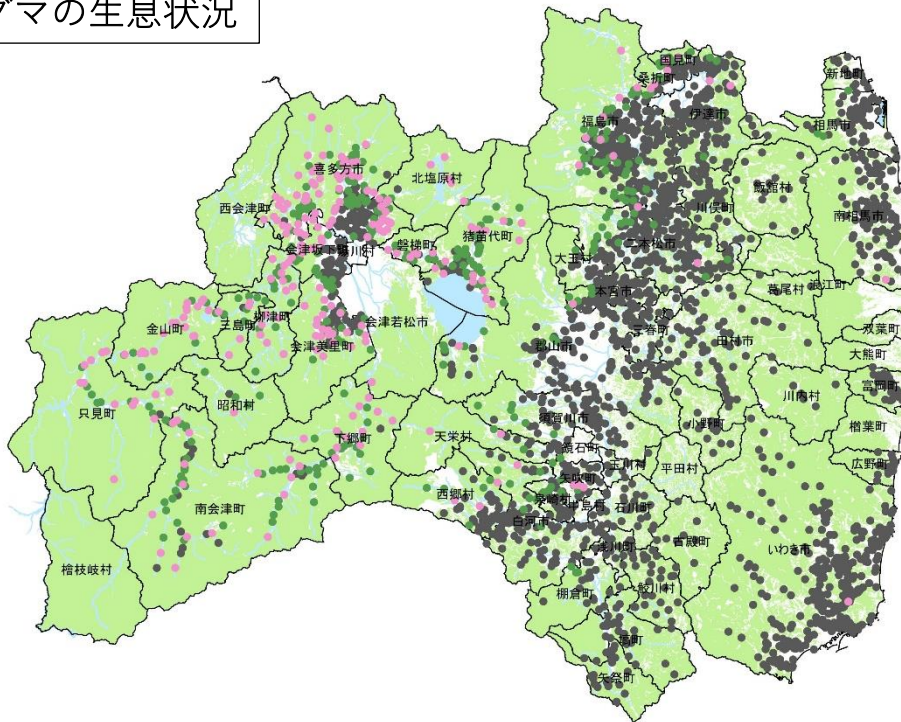


ニホンザルによる生活被害では、「住居集合地域での出没」との回答最も多く、「家屋等への侵入」との回答も51件あった。

ツキノワグマの生息状況

ツキノワグマの生息状況

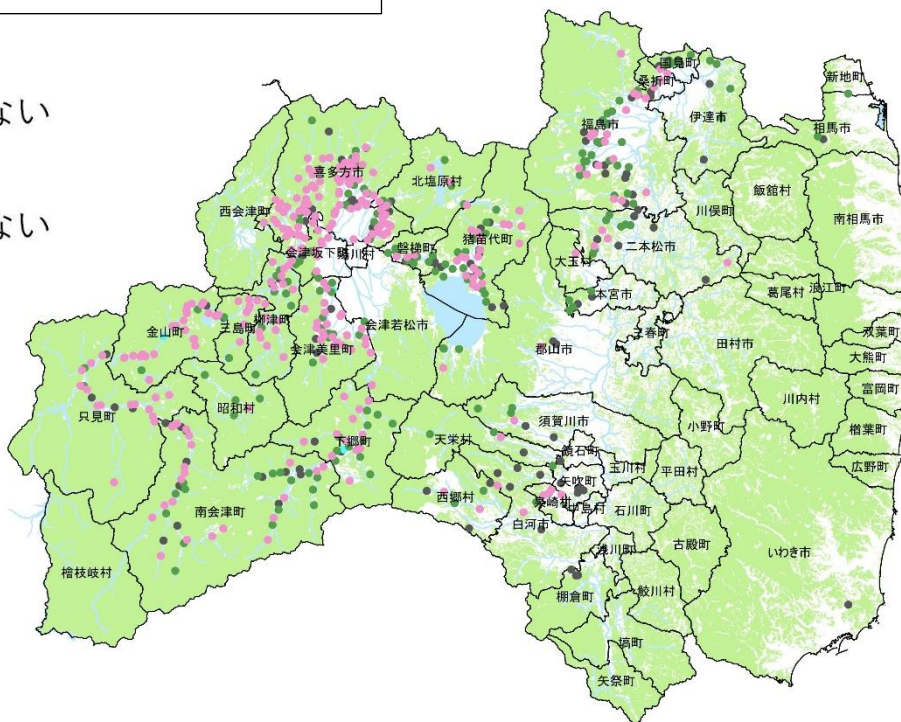
- 子連れ
- 1頭
- いない



ツキノワグマはニホンジカと同様の偏りがあり、主に会津から中通り西部にかけて分布している。一方で、浜通りでは「いない」という回答が大多数だが、南相馬市といわき市で「子連れ」との回答が見られた。南相馬市では、昨年度に引き続き生息が確認されている。

ツキノワグマの生息状況の増減

- 増えた
- 変わらない
- 減った
- わからない

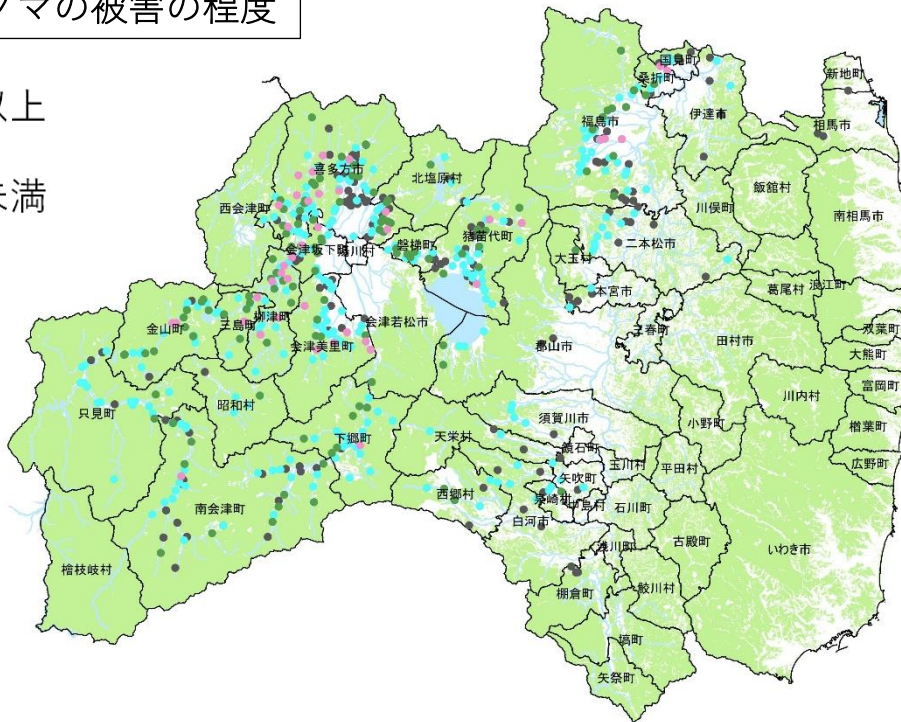


ツキノワグマが分布している地域のほとんどで、「増えた」もしくは「変わらない」との回答であったが、特に会津と県北、県南に「増えた」との回答が多い。

ツキノワグマの被害・対策状況

ツキノワグマの被害の程度

- 30%以上
- 30%未満
- 軽微
- ない



「軽微」との回答が主だが、「30%以上」との回答は会津地方に最も多く見られる。また、福島市や桑折町でも「30%以上」との回答があった。

定着しているが対策をしていない集落

- 定着しているが対策をしていない
- 対策を行っている

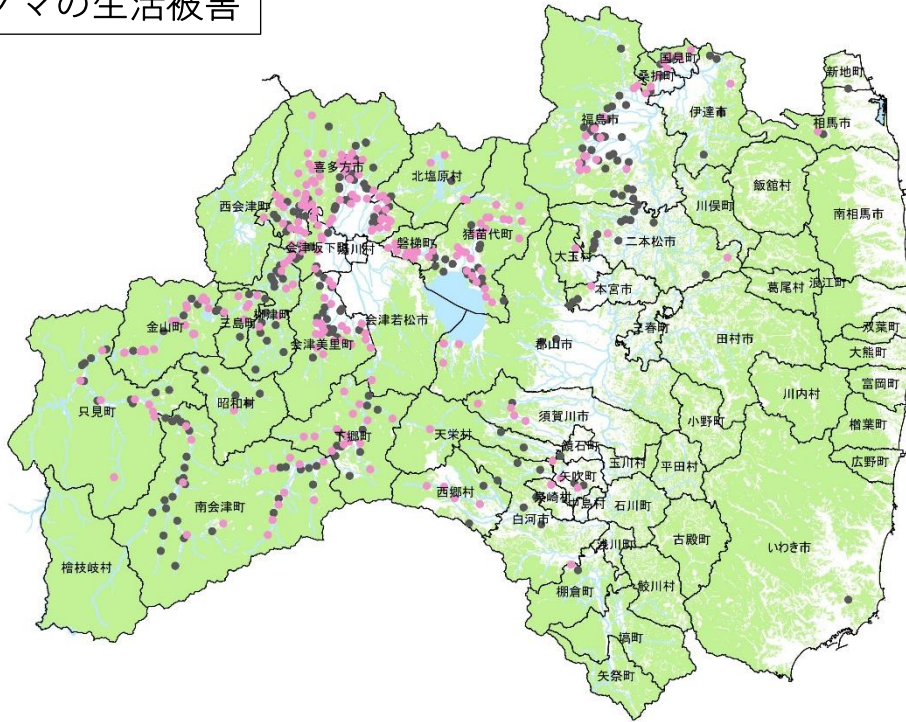


ツキノワグマが定着している集落 241 件のうち、対策をしていない集落は 55 件(約 22.8%)であった。昨年度と比べると、無対策の集落の割合は減少した。

ツキノワグマの生活被害

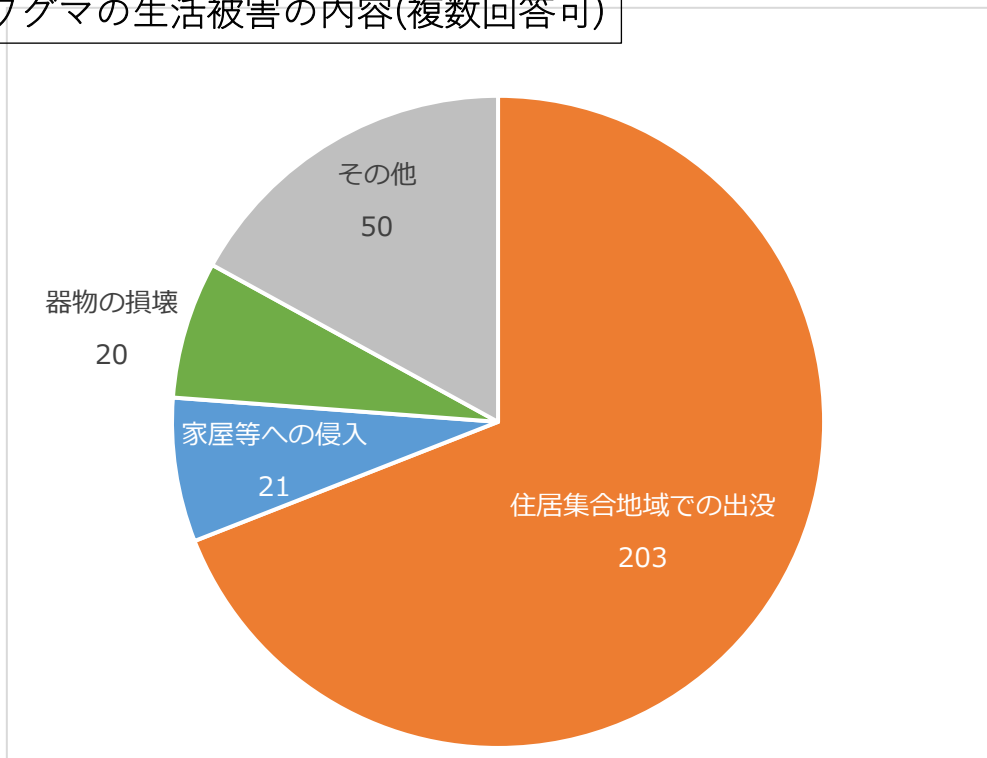
ツキノワグマの生活被害

- あり
- なし



ツキノワグマの生活被害は、主に会津地方で確認された。ツキノワグマが生息している 593 集落のうち、何らかの生活被害があると回答した集落は 260 あった(43.8%)。

ツキノワグマの生活被害の内容(複数回答可)



ツキノワグマによる生活被害では、「住居集合地域での出沒」との回答が最も多く、「家屋等への侵入」と「器物の損壊」がそれぞれ 20 件程度あった。